

タイトル：女人道（女性の巡礼路）について

女人道とは？

女人道は且つて女性巡礼者が高野山を一周するために使ったルートであり、盆地を取り囲む山々の中を通る 16km のコースです。高野山には真言宗の寺院百数寺があります。また、壇上伽藍や奥之院の聖域、空海としても知られる弘法大師（774-835）の霊廟もあります。弘法大師は、日本人の仏教僧で、中国から密教を伝え、高野山の基礎を築きました。女人道は、歴史的には高野山へのアクセスと高野山を周回するために使用されていた多くの歴史的な道と繋がっています。今日では、高野山の歴史をもっと身近に体験したいと望む観光者は、高野三山巡りや女人堂巡り、不動坂コースなどのコースを歩くことができます。

女性の巡礼路と女人堂の歴史

女人道は江戸時代（1603-1867）に多く使われるようになりました。江戸時代には、女人道は高野山への参道として、また、この聖なる山のあちこちにある町や村を結び、旅や輸送の道としての重要な役割を担っていました。7つの正式な「入口」である高野七口が参詣道の様々な場所にあり、高野山への入口として機能していました。小さな建物がこれらの入口に、さらに女人道の中にあるもう一か所に建てられ、女人堂と呼ばれていました。女人堂は集会所であり休憩所で、宿泊所でもありました。しかし、女人堂の多くは、数人が並んで眠るのがやっとというスペースしかありませんでした。今では、こうした女人堂で残っているのは一か所だけです。不動坂口女人堂が修復されており、高野山駅から最初の停留所の隣にあります。しかし、その他の女人堂のあった場所には案内板があります。案内板には、女人堂や女人道、高野山の自然の歴史についてここにしかない情報が記されています。

女人道や女人堂の正確な場所は、生態系の変化やこうした道を使う人々の必要に応じて何度か変更がありましたが、女人道の入口や女人道は、明治時代（1868-1912）になるまで永らく、高野山に近づくための起点となっていました。女人道には、高野山を通る舗装道路になっている部分もありますが、多くの部分はもともとの特徴を保ちながら、森の中を歩ける山道となっています。

極めて重要な宗教の道、輸送の道

女人道は老若男女問わず使われていました。物流のための道であると同時に聖なる旅の道でもありました。その道が女人道（女性の道）と呼ばれた理由は、宗教的な制約によって、明治時代になるまで女性が高野山の聖域に入ることは禁じられていたためです。明治時代以前は、この道は女性が聖なる谷に最も近くまで近付ける道でした。多くの女性たちが聖なる山に登り、女人道を歩きました。それは高野山を参拝するためであり、高野山で暮らし学ぶ親族を「訪ねる」ためでもありました。女性たちは盆地に降り立つことはできませんでしたが、彼女たちは巡礼道を歩くことによって、寺院の鐘の音を聞き、女人道の沿道にある見晴らしのよい場所から高野山の建物を見下ろすことによって、「訪れる」ことができました。

高野山の美しさと歴史を体験する

歴史的な眺望は、一部高野山の松や杉の保護林が覆い隠しているものもありますが、女人道では今でも高野山の寺院の眺めを見ることができ、転軸山、楊柳山、摩尼山という三つの山の頂からは多くのものを眺めることができます。これらの三つの山は「高野三山」とも呼ばれ、その聖なる頂は、弘法大師が奥之院で永遠の瞑想を続ける間、大師を警護しているのだと信じられています。ハイキングをする人たちは、1日の間に何度か寺院の鐘の音を聞くことができ、女人道の山道に咲く花や生い茂る葉は、季節を問わず、美しいものです。

保護林や重要な史跡の間を歩いて風景を楽しむほかに、女人道では、日本の巡礼者たちや、旅人たち、僧侶たちが何世紀もの間歩いてきたその足跡を辿るという他では得られない経験ができます。